

# 事業報告

## 令和3年度 第2回大分県社会教育行政職員専門研修会

日時：令和4年1月24日（月）～2月4日（金）

インターネットを活用した遠隔地研修

参加者27名

（市町村24名、県：3名）

### <研修趣旨>

県下の生涯学習・社会教育の一層の振興を図るために、事業遂行の中核的役割を果たす県及び市町村の社会教育行政職員等を対象として、その資質・能力の向上を図る。

多様性が求められる現代社会の中で、社会教育施設（公民館等）で必要とされる学習機会について考える。

### <研修内容>

講義：「課題の多様性と社会教育施設に求められているもの」

講師：別府大学文学部人間関係学科 教授 長尾 秀吉 氏

社会教育の現場で積み残された課題

- ①地域づくりの担い手の高齢化・停滞・減少  
…講座受講生、社会教育関係団体、地縁団体の減少に歯止めがかからない
- ②私的な生活の広がり和社会教育離れ  
…私的な生活の広がりでの学習は商品に、人権・自由、公共や公平への無関心の広がり
- ③前年踏襲の事業経営  
…職員や予算の減少、属人的な講座事業運営、同じ受講者の同じニーズ
- ④市民活動とのつながりが弱い  
…子ども食堂、フリースペース、障害者運動、外国人支援団体などとのつながり

演習：上記①～④について最も取り組む必要があるとお考えになったものを一つ選び、ご自身でお考えになったことを「提出用」に記入して提出。

①～④ごとにまとめ、長尾教授からコメントをつけて参加者に送付。

### <参加者感想>

- 長尾先生のご講義はもちろんのこと、コメントが非常に参考になりました。
- 自分が困っているところについて解決の糸口になりうる研修だった
- 講義内容は普段から感じていることが主であったが、言葉にしてもらうことで、思考の整理の助けになった。また、ワークシートでは県外の具体例をいただき、参考になった。  
コロナ対策など県内市町村と足並みを揃えることに神経を使うことが多く（成人式の開催など）、視野が狭くなっていたと感じた。
- 一番考えさせられたことは、これまであまり対象となっていなかった層や社会教育に縁遠かった人々をどうつなげていくか、ということでした。いつも考えますが、よい策はなかなかみつからず苦慮しています。
- 公民館の首長部局による所管の問題について、当市でもあり方の検討を開始しており、さまざまな問題が浮き彫りになりつつあります。